



◆原発事故避難被災自治体での活動を抜粋して

*事業活動名 学生DASH村…コミュニティの再生

【目的・目標】

田村市都路地区では、主要な地域は2014年度4月に避難指示が解除され、地区への帰還が実現しました。しかし人口減少と相まって高齢化が進み、地域間の繋がりが希薄化していきました。そこで学生を介した交流の場の創出を目標に「学生DASH村」は始まりました。元気に過ごす地域住民の方々と協力してコミュニティ形成を進めていく唯一無二の活動となっています。

【主な活動】

○四季サロン ○古民家を活用した拠点づくり
○住民指導のもと農作業 ○地域のサロンの拠点貸出 ○地区活動への参加



*事業活動名 小高フリースペース…学習支援で「個」につき合う

【目的・目標】

南相馬市小高区は津波被害や原発事故によって、区全域が避難を余儀なくされました。その後、2016年7月12日に小高区全域は避難指示解除がされました。2012年の夏から小高地区の多くの方々が避難した鹿島地区の仮設住宅でフリースペースは始まりました。そこから毎年夏休み・冬休みの年2回2日～1週間の活動をしています。2017年の夏からは避難指示解除によって、ふるさとの元の小学校へと場所を移しました。子どもたちの心身のリフレッシュや学習意欲の向上を目的としています。フリースペース最大の魅力は子どもたちの自主性にゆだねられることです。勉強するものを自分で持ってきて、いつまで勉強するのか、遊ぶのかを自分で決めます。

【主な活動】

○学習支援 ○夏冬の学生企画イベント ○中学校での大学生講話



*事業活動名 ならはっ子「おとなへの階段プロジェクト」 …子どもの未来を育む

【目的・目標】

楡葉町は、2015年避難指示解除となりましたが、「町内には（子どもはもちろん）大学生世代が極端に少なく、大学生との活動で児童・生徒たちが成長するうえでのロールモデルになってくれないだろうか」という相談を楡葉町教育委員会から受けました。そこで、2022年から「楡葉地域学校協働センター」とプロジェクト協定を締結し（2021年度はプレ活動実施）、様々なプログラムを行います。

【主な活動】

○学習支援の「てらこや活動」 ○野外体験1泊キャンプ
○リトルオープンキャンパスツアー ○“We make your hopes”
つきそい活動 ○楡葉地域学校協働センターに福大災ボラのコワーキングキッズスペースの設置

その他、浪江町での「健康体操活動」、各地復興公営住宅でのサロン活動（福茶サロン）・「学生食堂」、など多様にわたる活動を展開しています。





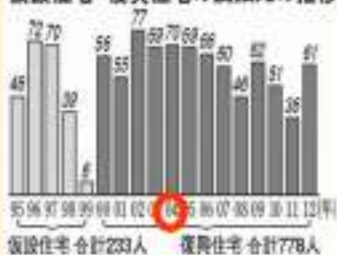
◆被災経験者の孤立防止、well-beingをめざして

＊事業活動名 **復興公営住宅等居住者の生活支援活動および
コミュニティ作り…笑いあって過ごせるように**

10年経過

＜阪神・淡路大震災では＞

仮設住宅・復興住宅の孤独死の推移



被災者側の孤独死の累計

	仮設住宅	復興住宅
累計	45	46
宮城	109	182
福島	88	43
合計	243	251

※宮城県を調べ、19年まで、累計

【目的・目標】

仮設住宅（約30か所）から現在の復興公営住宅（約10か所）で、被災者の孤立死・関連死・自死を引き起こさないよう、私たちが一貫して取り組んでいる活動です。心身ともに健康で過ごせるよう、子どもから高齢者までの居場所づくりになるよう住民の方々とともに活動を創り出しています。学生と一緒にいるだけで楽しいと、日常生活の張り合いになっているようです。

【主な活動】

- 足湯活動 ○サロン活動（福茶サロン）
- 季節を感じる交流会 ○健康体操 ○学生食堂
- 「子どもの時間」



【足湯】

【健康体操】

【福茶サロン】

【子どもの時間】

【季節の活動】

【学生食堂】

◆福島での育ちをずーっと見守る・考える

＊事業活動名 **子どもの力支援、健全な交友づくりサポート活動
次世代育成サポート活動…福島未来は次世代がつくる**

【主な活動】



○「集まれ！ふくしま子ども大使キャンプ」福島と全国各地からの子どもたちが交わり、被災者の生活そして福島的生活、福島歴史、福島の民俗・文化、福島の自然を学ぶプログラムです。

○「ふくしま子どもネイチャリングキャンプ」震災・原発事故を身近にふれた福島の子だからこそ、力強く・主体的に成長して欲しいと、まるまる自然の中での「体験・発見・挑戦」をテーマに活動します。

○中高校生の防災ワークショップ
福島県内外の学校の修学旅行、研修での防災教育プログラムをコーディネートします。被災体験共有や、震災への備え、未来のまちづくりなど大学生といっしょに考えます。

＊災ボラ体制図＊

